

# ウナギの出身地 マリアナ沖



長年の謎だったニホンウナギの産卵場所が、北西太平洋のマリアナ諸島の海山であることを、東京大学海洋研究所の塚本勝巳教授らのグループが突き止めた。孵化したばかりの「仔魚」（しんご）の写真を、東大海洋研提供。数百匹を採取し、遺伝子解析でニホンウナギと確認した。謎に包まれた生態を明らかにできれば、ウナギの完全養殖の実用化にもつながると期待される。23日付の英科学誌ネイチャーに発表する。

## 東大グループ解明

ウナギの産卵場所は、古代ギリシャ時代からの謎。

養殖のウナギは、卵からでは育たず、全長50〜60センチ

まで成長した天然の稚魚を採取して育てている。

研究グループが採取した

仔魚は全長4・2〜6・5

ミリ。孵化後2日、周辺の

海流から、マリアナ諸島沖

## ニホンウナギの産卵場所



の海山で産卵したものと特定できた。海山は水深3000〜4000メートルの海底から海面下10メートルまでそびえ立つ海山。

孵化した仔魚は、北赤道海流と黒潮にのって、約3000キロの距離を3〜7か月間かけて日本沿岸まで旅をしてくる。

独立行政法人・水産総合

研究センター養殖研究所の田中秀樹・繁殖研究グループ長は「ウナギの産卵は謎が多く、人工飼育では孵化後100日まで生きるのは1万匹に数匹ほど。産卵時の水温や明るさ、エサなどが分かれば、完全養殖が大きく進む」と期待している。